



富士金属工業団地

工場を拡張したいが、周辺が住宅のためできない。騒音や振動などの苦情が多く出ている。——こんな事業所の悩みを解消し、工業振興をさらに図ろうと、市は小規模事業所集団化事業を進めています。

小規模事業所を団地化

住宅と工場を分離

移転希望事業所は工業課へ

移転理由は「作業所が狭い」など

この事業は、公害問題などで悩んでいる小規模事業所を1カ所に集め団地化することによって、工場の整備と経営の安定化を図ろう——というものです。対象は、概ね従業員20人以下の事業所ですが、それ以外の事業所でも立地状況によっては参加できます。現在、住宅密集地や市街地にある事業所の多くが、振動や騒音などの公害の苦情、あるいは、密集地のため作業所の拡張ができないなどの悩みを抱えています。

市が昨年行ったアンケート調査では、集団化して移転したい事業所が全体の半数以上もあることがわかり

ました。移転希望の主な理由としては、「作業所が狭い」「用途指定のため増設が不可能」「借地・借家のため」などがあげられていました。

また、市民から苦情を受けたことのある事業所は、全体の約30%。

苦情の最も多いのは「騒音」、次に「振動」「ばい煙」の順でした。

このような悩みを抱えている小規模事業所にとって、1事業所だけでこれらの問題を解決するということは、大変むずかしいことです。

そこで、移転希望のある事業所が集まって協同組合をつくり、集団移転し、住宅地と離れた新しい場所へ工場団地を造ろうというのが、この小規模事業所集団化事業の大きなねらいです。



緑樹の果す役割は

(こえ) 市内の広い通りには街路樹が植えられ、公園にも緑が増えてきました。緑のある街は、市民にとって魅力ある街です。

そこで緑樹の果す役割をPRすると同時に、これからも緑をもっと増やしてください。(一市民)

(こたえ) 緑樹の果す役割はいろいろありますので、今回と次回の二回にわけでお知らせします。

今回は地震時などに予想される火災に對しての効果を説明します。

普通の木材は、面積一平方メートル当たり一時間に四千キロカロリーの熱(真夏の太陽で千キロカロリーぐらい)を受けると着火しますが、生の立木は一万キロカロリーを超えてもなかなか着火しません。

建設省建築研究所では、樹木二十種について耐火力の実験をし、ランクづけをしています。

その結果、モッコクやサンゴジュが最も火に強く一級、サザンカの生け垣はそれにつぐ二級、イチヨウの並木などは三級と分類されています。

このように緑は、無言で都市生活を守り続けています。(市みどりの課)

集団化によって共同事業も

市内には現在、浮島工業団地と五貫島の富士金属団地、駿河金属団地の3つがあります。

団地の特徴は、なんとといっても住宅地域から工場が分離されることにあります。それによって、騒音や振動など、周囲に気を使わず仕事ができること。また、工場が集団化することによって、共同化による豊富な品ぞろえができることや共同購入、共同販売の実施が可能になります。

この他に、労働者の労働環境も改善されるため、生産力の向上にも結びつきます。

建設資金については、国の公害防止事業団の融資制度のほか、県の中小企業集団化の高度化資金など、長期で低利な融資が受けられます。

まず組合を設立

この事業を実現させるためには、まず、移転希望事業主によって、協同組合をつくる必要があります。

市は、組合設立のため移転希望事業主40社余の代表で構成した準備委員会を今年の3月に発足させました。現在、準備委員会では、先進工業団地の視察や組合設立のための諸準備をすすめています。

団地の建設は、おおよそ昭和60年度を目標にしています。しかし、この事業を進めていくには、今後、用

富士金属工業団地

工場建設まで組合独自で



富塚喜作さん(74歳)
(富塚製作所)

今から十二年前の昭和四十五年にここへ来ました。ここへ来て本当に良かったと思っています。ここは、鉄工関係の会社ばかり二十社ありますが、開設当初から一社もやめたところがないんですよ。ここへ来る前は、ほとんどが零細企業ばかりだったのでは……。

この団地を造るときに協同組合をつくり、組合独自で土地取得から工場の建設までやりました。建設にあたっては、資金を低利で長期に借りられたということが大変たすかりました。現在では、営業成績も順調に伸びています。

浮島工業団地

高まった従業員の定着率



杉山 清さん(52歳)
(杉山鑄造株式会社)

ここへ来たのが昭和五十一年の春。工場を移転したいと思っていたとき、ちょうど浮島に工業団地ができるということを聞き、移転に踏み切りました。工場を移転する場合、個々で土地を探すということは大変なことなんです。集団で行うというのが一番いい方法だと思います。ここは住宅地と離れているので騒音や振動の心配もまったくありません。工場環境もいいため、生産もあがり、従業員の定着率もよくなりました。それから、下水道や電力等、組合で行っているため安くになります。

地選定や組合へ加入するという事業主の意志決定の問題が残されています。これらの問題を解決することが、団地建設実現へ向けて、大きく前進

することになります。

この小規模事業所集団化事業に参加を希望する事業主は、市工業課へお申込みください。 内線405

グループ訪問 58

富士民話の会

プロフィール

昭和56年4月設立。会員20人。地域の民話を紙芝居にしている。「富士山の話」「かりがね堤」など三作。婦人の地域活動参加促進事業として県の指定を受けている。会員募集中。連絡先☎61-8235(柴田宅)



大きな紙芝居を演じる
富士民話の会の主婦会員

たて八十珍、よこ一匹の大きな紙芝居。発端は子供に出された社会科の宿題。郷土の昔話を、親も知らなくてはと、母親がグループで勉強をはじめたことから。毎月第一・三金曜の午前中、富士公民館や西図書館が絵筆をふるったり、和気あいあいとした話しあいの場所となる。出来上った作品は子供会や幼稚園で公演するほか、貸出しも行っている。

これからは、普通の大きさの紙芝居にもとりくんで、数多く知った郷土の昔話を伝えていきたい、とほりきっている。